

●《1日目》2019年9月28日(土) 13:30~16:15 (13:15 開場)  
会場 ドーンセンター5F 大会議室2



基調講演

「成熟社会を目指して、わたしたちができること」

認定NPO法人日本クリクラウン協会  
理事長 河 敬世 氏

病気や障害を抱えることもたちと家族を支えるためには、社会全体が“成熟”することがとても重要です。すべてのこどもがこどもらしく過ごせる社会、そして誰もが笑顔になれる社会を目指すという、同じ志をもつ団体や多職種が、お互いを理解し尊重し合い、結びつきを深め“成熟社会”の実現を目指すために、一人ひとりができることを皆さんと一緒に考えていきましょう。



1970年に大阪大学医学部を卒業し、小児科医として40年以上のキャリアを持つ。主に小児がんや血液疾患、EBウイルス感染症などの診断、治療に従事し、小児造血幹細胞移植の実績は日本一を誇る。2010年3月に大阪母子医療センター院長を定年し、4月から同顧問に就任。日本クリクラウン協会とは設立当初から関係し、2010年5月から理事長に就任し現在に至る。

レクチャー

テーマ「変化する療養環境を理解するためにそれぞれの立場からの提言と意見交換」

①「生まれる前からの支援（胎児診断からの家族へのケア）」

大阪医科大学附属病院  
リエゾン精神看護専門看護師 師長代理 宮田 郁 氏

リエゾンとはフランス語で「つなぐ」という意味。リエゾン精神看護は、身体疾患をもつ患者が抱える精神的な問題や課題への看護を行います。「病」をきっかけに、患者と家族は様々な苦難に向き合うこととなります。特に胎児診断によりお腹の赤ちゃんに何か問題があるとわかった時、「どうして私の赤ちゃんが…」という答えのない問いかけをしながら、ママと家族は様々な意思決定を強いられます。このようなママと家族へのケアについて紹介し、皆さんと一緒に考えていきたいと思います。



大学卒業後、10年間の一般企業勤務を経て、大阪医科大学附属看護専門学校に入学し、2003年に看護師として同附属病院に入職しました。その後、精神看護専門看護師（リエゾン）を目指して兵庫県立大学大学院に進学、2011年に専門看護師認定審査に合格し、院内をフリーで横断的に活動しています。2019年度より、信州大学大学院総合医理工学研究科博士課程に進学し、現在、臨床と研究の二足の草鞋を履いて活動しています。

②「入院中のこどもと家族の生きる力を支える」

認定 NPO 法人日本クリクラウン協会  
理事・チーフトレーナー 石井 裕子 氏

入院生活を過ごすこどもがこどもらしく過ごすために、そしてこどもたちを支える様々な人々が自分らしく過ごせるために、クリクラウンは人と人をつないでいきます。「あなたに会いたいから」その気持ちを原動力に、入院中のこどもたちや家族の生きる力を支える遊びや心の交流、「こども時間」についてお話しします。



2000年にアメリカのクラウンキャンプにてケアリングクラウンを受講。その奥深さに興味を持ち続け、ケアリングクラウンとして活躍。2004年に日本クリクラウン協会設立委員となり、クリクラウンオランダ財団で研修を受け、法人設立後は、日本でのクリクラウン養成トレーナーを担当。2013年に理事に就任し、クリクラウントレーナーとして事業を統括し、日々ワクワクドキドキに心を踊らせながらクリクラウンとして全国の小児病棟を訪問。また、学会や医療・福祉・教育の分野で講演会・研修会の講師も務める。

③「地域の中で、病気のこどもと家族を支える～その子らしく生きるために～」

TSURUMI こどもホスピス  
ゼネラルマネージャー 水谷 綾 氏

地域社会の中で、長期治療や入退院を繰り返す子どもや医療的ケアが必要な子どもたちを支えるため、と家族を支えるために必要なことや踏まえてほしい視点とは…。TSURUMI こどもホスピスでは、どんな状況にある子どもであっても、同世代の子どもと同じ経験を生きることが大切だと考えています。病院や学校、そして、自宅では実現できない子どもらしい時間のあり方を子どもと家族とともに考えながら、地域における小児緩和ケアのあり方について、皆さんとともに考えていけると大変心強いです。



現在、ゼネラルマネージャーとして、法人運営、ファンレイジングを中心に、ケア部門では医療連携を主に担当しています。前職の大阪ボランティア協会時代に、「こどものホスピスプロジェクト」の支援を通じたつながりから、地域における小児緩和ケアの世界へ。子どもにとっての希望と未来を語り、彼らと歩む存在であり続ける一そんな地域のホスピス像を普及させていきたいのが、今の願いです。